令和　4　年度

（様式1）

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1990700054		
法人名	社会福祉法人身延山福祉会		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	山梨県南巨摩郡身延町飯富2288番地		
自己評価作成日	令和　4　年　12　月　6　日	評価結果市町村受理日	令和 3　年　3 月 29　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1－2－12
聞き取り調査日	令和5年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の周りには田んぼや畑があり、散歩時など地域の方々との交流もある。車で1～2分の距離に病院やスーパーマーケットがあり利便性が良い。施設内は木のぬくもりを生かし落ち着いた内装となっている。また、南側には広い庭があり樹木や花を植え四季折々の風景や外気浴や日光浴、また、月に1度のバイキングを楽しんでいただいている。居室も8畳弱あり、ご家族の宿泊できる広さとなっている。現在コロナ禍であり地域住民との交流は図れていないが、関係性を継続できるように働きかけを行っている。通年では余暇活動のボランティアやお話相手等もしてくださり、年を重ねるごとに地域に溶け込みつつある。施設の理念は、自分が入りたい施設、受けたいケアについて職員全員で話し合ったものであり「当たり前の暮らし」を常に考え利用者の思いに寄り添い、利用者本位のサービスを心掛け

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域で暮らしていたい、そんな気持ちを大切にされ、理念に掲げた【自分が入りたい施設、受けたいケア】が環境的に整われていました。居室は広々としていて家族が宿泊することができ、看取りに立ち会える安心感が感じられました。【のぞみだより】には生き生きとした、楽しそうな利用者の姿が窺え、家族が安心してお任せできる、グループホームの様子が感じられることと思われます。災害対策にもしっかり対応され、地域の協力が得られる対策ができていました。ゆったりした空間で、安全で安心できる生活を提供し、家族が納得できる支援が行えるように「報連相」に一層の対策をお願い致します。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）（※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか）（※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）（※窓越しの面会など距離をとった交流）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（様式１）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームのぞみ**

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　つくし　）	 ユニット名（　たんぽぽ　）	外部評価 実践状況	 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念は、開設事前研修の際に職員全員で、自分が入りたい施設、受けたい介護について話し合い、共通の思いで作り上げた理念であり、常に理念を念頭に置き課題に対処している。理念は、介護の基となると考え職員ミーティングの際に確認指導している。また、新しく入った職員にも共通の認識が持てるように指導している。	当施設の理念は、開設事前研修の際に職員全員で、自分が入りたい施設、受けたい介護について話し合い、共通の思いで作り上げた理念であり、常に理念を念頭に置き課題に対処している。理念は、介護の基となると考え職員ミーティングの際に確認指導している。また、新しく入った職員にも共通の認識が持てるように指導している。	理念は開所時に、自分が入りたい施設、受けたい介護を目標に作成されていました。職員会やミーティングでは、スピーチロックはしていないか、受けたい介護になっているか、理念に基づいているか確認されていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は持てていないが、野菜の差し入れなどしていただいている。	コロナ禍で地域との交流は持てていないが、野菜の差し入れなどしていただいている。	コロナ禍以前は個々への話し相手に、又フラダンス、日本舞踊、大正琴、オカリナ、保育園児の遊戯等様々な交流があり、ボランティアの積極的な受け入れを行っていました。現在は感染予防のため行っていません。現状は散歩時の挨拶ぐらいです。コロナ収束時には地域との交流を検討されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室等の改まった席は設けていないが、電話などの相談には応じている。	介護教室等の改まった席は設けていないが、電話などの相談には応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて開催していないが、利用者の状況、事故報告、活動状況等を書面で報告しそれについての意見要望等を返信していただいている。その中で、余興ボランティアを紹介していただいた。コロナ禍では難しいが、コロナが終息した際は来所をお願いしている。	運営推進会議は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて開催していないが、利用者の状況、事故報告、活動状況等を書面で報告しそれについての意見要望等を返信していただいている。その中で、余興ボランティアを紹介していただいた。コロナ禍では難しいが、コロナが終息した際は来所をお願いしている。	運営委員会は、2か月毎に地域の方と事業所の活動状況等検討され、改善していました。現在は書面会議で事業内容や活動状況、「のぞみだより」、返信の意見書を送付して意見を頂き、支援の改善に繋げていました。地域の委員からは多くの助言があり、地域の園芸のボランティアに希望を繋げて頂きましたので、コロナ禍ですが検討されていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居、待機者の状況に加え、介護保険の更新時の情報提供、また、毎月の機関紙などを通して施設の活動状況を報告している。	入退居、待機者の状況に加え、介護保険の更新時の情報提供、また、毎月の機関紙などを通して施設の活動状況を報告している。	行政から地域の利用希望者やコロナワクチンの接種状況等の情報共有ができていました。事業所の様子も「のぞみだより」等で伝えていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開放し帰宅願望等ある方に対しては、両ユニット間で協力体制を図り、付き添いや見守りを行い、落ち着かれるまで対応できるようにしている。身体拘束の適正化のための指針を基に、身体拘束廃止検討委員会にて、不適切な言葉遣いやスピーチロックに関して振り返りを行い改善案を検討している。	玄関は開放し帰宅願望等ある方に対しては、両ユニット間で協力体制を図り、付き添いや見守りを行い、落ち着かれるまで対応できるようにしている。身体拘束の適正化のための指針を基に、身体拘束廃止検討委員会にて、不適切な言葉遣いやスピーチロックに関して振り返りを行い改善案を検討している。	コロナ禍のため法人としての研修はできていませんが、事業所でＤＶＤや拘束マニュアルを活用し、毎日の介護や支援に拘束はないか話し合われていました。特に忙しい時、スピーチロックをしていないか振り返りを行っていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待に関する研修を行っている。不適切な言葉遣いやケアに関してはOJTにて指導している。	施設内で虐待に関する研修を行っている。不適切な言葉遣いやケアに関してはOJTにて指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業及び成年後見制度についての資料を配布し勉強会を行っている。	日常生活支援事業及び成年後見制度についての資料を配布し勉強会を行っている。1名の方が成年後見制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書の説明を行い、その都度質問に答えている。また、加算、その他の理由による料金の改定に関しては重要事項説明書を改訂し説明同意を受けている。	契約時には契約書、重要事項説明書の説明を行い、その都度質問に答えている。また、加算、その他の理由による料金の改定に関しては重要事項説明書を改訂し説明同意を受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々関りの中で意見や要望を伺っている。言葉として表現できない方に対しても、表情などで心情をくみ取るように努めている。家族に対しては担当介護員が毎月、写真入りの手紙により利用者の状況を伝え家族との関係性を深め、また、面会や電話連絡の際に近況を伝え意見を頂いている。家族の要望からライン面会を行っている。	利用者には日々関りの中で意見や要望を伺っている。言葉として表現できない方に対しても、表情などで心情をくみ取るように努めている。家族に対しては担当介護員が毎月、写真入りの手紙により利用者の状況を伝え家族との関係性を深め、また、面会や電話連絡の際に近況を伝え意見を頂いている。家族の要望からライン面会を行っている。	利用者家族から、直接面会が出来ないから声が聞きたいのでスマートフォンを利用したいとの希望があり、実施していました。利用者に不慮の事故があり、本人が訴えなかったので、家族への報告や通院が迅速に行えなかったことで家族から苦情を受けた事がありました。利用者の見守り、対象、報告の改善を行い、安心できる介護の提供ができるよう検討し、実施されていました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームのぞみ**

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　つくし　）	自己評価（実践状況） ユニット名（　たんぽぽ　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その日の出勤者が集まることのできる昼に昼礼を開き、ケアや業務についての意見交換を行っている。また、ユニット会議での意見をリーダー会議で検討、職員会議で決定し運営に反映している。食事ケア委員会、行事レク委員会がそれぞれの分野で企画運営の権限を持ち主体的に行えるようにしている。管理者は個人と面談を行い、意見、不満、悩みを聴く機会を設けている	その日の出勤者が集まることのできる昼に昼礼を開き、ケアや業務についての意見交換を行っている。また、ユニット会議での意見をリーダー会議で検討、職員会議で決定し運営に反映している。食事ケア委員会、行事レク委員会がそれぞれの分野で企画運営の権限を持ち主体的に行えるようにしている。管理者は個人と面談を行い、意見、不満、悩みを聴く機会を設けている	ユニット会議で業務の効率化が提案され、日誌等の改善を行っていました。管理者と年1，2回の面接を行い、日常の不安や要望、ケアの改善を聞き取っていました。職員の勤続年数も比較的長く安定した職場になっていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスケジュールは過重にならないようにまた、プライベートも大切にできるように希望休を聴きながら作成している。有給休暇取得についても希望に沿うようにしている。また、利用者とは完全に離れて過ごす休憩時間を設けリフレッシュできるようにしている。委員会活動は得意分野についてもらい主体性を持った活動ができるように努めている。	職員のスケジュールは過重にならないようにまた、プライベートも大切にできるように希望休を聴きながら作成している。有給休暇取得についても希望に沿うようにしている。また、利用者とは完全に離れて過ごす休憩時間を設け、リフレッシュできるようにしている。委員会活動は得意分野についてもらい主体性を持った活動ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により法人内の研修は自粛のため、ビデオ研修を行っている。外部研修はWeb等に参加している。また、業務ないでは、関わり方やケア内容を見ながらOJTを行っている。	コロナ禍により法人内の研修は自粛のため、ビデオ研修を行っている。外部研修はWeb等に参加している。また、業務ないでは、関わり方やケア内容を見ながらOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会が遠方で行われているため参加していない。	交流会が遠方で行われているため参加していない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人についてのバックグラウンドについて情報を収集し、感情や自分の思いを表出できるような環境づくりを行い、関係性が築けるよう努力している。また、入居当社はリロケーションダメージを考慮し、ご本人の状況を見ながらゆったりと関り寄り添いの時間をを作りなじみの関係ができるように努めている。	入居前より本人についてのバックグラウンドについて情報を収集し、感情や自分の思いを表出できるような環境づくりを行い、関係性が築けるよう努力している。また、入居当社はリロケーションダメージを考慮し、ご本人の状況を見ながらゆったりと関り寄り添いの時間をを作りなじみの関係ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当のケアマネージジャーより情報を取り寄せている。また、事前に面接を行い家族の話を伺っている。入居当初の環境に慣れない時期にあっては、本人の生活状況を細かく伝え意見を伺っている。	担当のケアマネージジャーより情報を取り寄せている。また、事前に面接を行い家族の話を伺っている。入居当初の環境に慣れない時期にあっては、本人の生活状況を細かく伝え意見を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談し、本人の状況を確認させていただき、福祉用具利用の提案をさせていただいている。	入居前に面談し、本人の状況を確認させていただき、福祉用具利用の提案をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な活動時、その方のできることを役割りとし、一緒に行うことで協力し合う関係を築き、作業が大きな役割を担っていることと感謝の気持ちを伝えることで、利用者自身が存在意義を実感できるよう関わり方を指導している	様々な活動時、その方のできることを役割りとし、一緒に行うことで協力し合う関係を築き、作業が大きな役割を担っていることと感謝の気持ちを伝えることで、利用者自身が存在意義を実感できるよう関わり方を指導している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時、家族がしてあげたいことを伺いケアプランに反映させている。また、入居時の居室環境設定はご本人と家族にお願いし居室づくりを行っていただいている。受診が可能な家族にはお願いしている。	入居時、家族がしてあげたいことを伺いケアプランに反映させている。また、入居時の居室環境設定はご本人と家族にお願いし居室づくりを行っていただいている。受診が可能な家族にはお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会は玄関先かライン面毎をお願いしている。写真や動画を送っている。家族、友人、知人からお届け物があった場合は電話やお礼状の支援を行っている。	コロナ禍により面会は玄関先かライン面毎をお願いしている。写真や動画を送っている。家族、友人、知人からお届け物があった場合は電話やお礼状の支援を行っている。	コロナ禍以前は家族の面会も多く、事業所の行事にも家族参加の機会を設け、昼食等一緒に食べて楽しまれていましたが、感染予防のため窓越しで携帯電話を利用しての面会になっていました。商店街への食材の買い物も行えていませんでした。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームのぞみ**

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　つくし　）	自己評価（実践状況） ユニット名（　たんぽぽ　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や行動パターン、利用者同士の相性などを考慮し意図的に席を案内したり、橋渡しをしたり一人ひとりにスポットライトを当てながら、様々な作業を協力し合って行うことでお互いの存在を認め合う環境を作っている。また、作業終了時は、集団で行うことの大切さを感じることができるような話をする。	個人の性格や行動パターン、利用者同士の相性などを考慮し意図的に席を案内したり、橋渡しをしたり一人ひとりにスポットライトを当てながら、様々な作業を協力し合って行うことでお互いの存在を認め合う環境を作っている。また、作業終了時は、集団で行うことの大切さを感じることができるような話をする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族には施設で撮りためた写真をSDカードにデータ保存したものとデジタルフォトフレームを送っている。亡くなられた方に対しては、通夜、告別式に参列させていただいている。また、他施設に入居された方へ面会に行き関りを持っている。（現在コロナ禍によりできていない。）	退居された方の家族には施設で撮りためた写真をSDカードにデータ保存したものとデジタルフォトフレームを送っている。亡くなられた方に対しては、通夜、告別式に参列させていただいている。また、他施設に入居された方へ面会に行き関りを持っている。（現在コロナ禍によりできていない。）		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションが図れる方に対しては、個人の思いを聴いたり、漠然として答えられない方に対してはご家族に伺ったり、ご本人のバックグラウンド（生活歴・趣味・趣向その他）をもとにいくつかの選択肢を挙げ選択していただいたり、その返答や表情を見ながら把握に努めている。また、毎日の関わりの中で感じたこと気になることを記録に残し、職員全員でそれを共有しミーティングで話し合い、ご本人の思いや願いをくみ取ることができるに検討している。	コミュニケーションが図れる方に対しては、個人の思いを聴いたり、漠然として答えられない方に対してはご家族に伺ったり、ご本人のバックグラウンド（生活歴・趣味・趣向その他）をもとにいくつかの選択肢を挙げセンタ規していただいたり、その返答や表情を見ながら把握に努めている。また、毎日の関わりの中で感じたこと気になることを記録に残し、職員全員でそれを共有しミーティングで話し合い、ご本人の思いや願いをくみ取ることができるに検討している。	認知症のため利用者の思いがくみ取りにくいため、入所時に、家族から今までの生活状況や地域とのつながり等の生活歴を詳細に聞き取り、本人の気持ちを探っていました。毎日の支援にも入所時の情報を参考に寄り添いながら、希望や意向を探っていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前の面接を行い、家族の了解があれば自宅訪問し、これまでの生活環境を拝見させていただいたり、成育歴、生活歴、趣味趣向等の情報を得ている。また、担当のケアマネージャーからご本人及びサービスの利用状況の情報を得ている。	入居前に事前の面接を行い、家族の了解があれば自宅訪問し、これまでの生活環境を拝見させていただいたり、成育歴、生活歴、趣味趣向等の情報を得ている。また、担当のケアマネージャーからご本人及びサービスの利用状況の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間記録にてバイタル、食事、水分摂取量、排泄、入浴、活動状況、睡眠状況などを記録、また、どのように過ごされていたかを記述し、心身の状況を把握している。様々な刺激、や事柄による勘定、行動の変化を観察し好みの過ごし方を検討している。また、できる・できない・支援によってできること、わかる・わからない・支援によってわかることを把握している。	24時間記録にてバイタル、食事、水分摂取量、排泄、入浴、活動状況、睡眠状況などを記録、また、どのように過ごされていたかを記述し、心身の状況を把握している。様々な刺激、や事柄による勘定、行動の変化を観察し好みの過ごし方を検討している。また、できる・できない・支援によってできること、わかる・わからない・支援によってわかることを把握している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前は、ご本人家族の思いに加えて、今までのサービス提供事業所やケアマネージャーからの情報を得て、暫定ケアプランを作成し、1か月後それを基に担当者がモニタリングを行い、ケアマネージャーが状況を報告、意見を頂きプランの修正を行っている。以降6ヵ月ごとに見直し尾を行い家族に同意を得ている。	入居前は、ご本人家族の思いに加えて、今までのサービス提供事業所やケアマネージャーからの情報を得て、暫定ケアプランを作成し、1か月後それを基に担当者がモニタリングを行い、ケアマネージャーが状況を報告、意見を頂きプランの修正を行っている。以降6ヵ月ごとに見直し尾を行い家族に同意を得ている。	介護計画はユニットの日誌や連絡帳で共有し、ケアマネージャーは家族や訪問看護師の意見を参考に、ケアプランの作成を行っていました。職員間でモニタリングが行われ、ケアマネージャーと情報の共有ができていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録にケアの実践と結果を記録、職員間で共有し気づきや工夫などは連各ノートを用いて周知し、ケアプランの見直しに生かしている。	個人の記録にケアの実践と結果を記録、職員間で共有し気づきや工夫などは連各ノートを用いて周知し、ケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望にて買い物の付き添いを行っている。お墓参りに出かけている。またお墓参りを希望された方に対して付き添いを行った。	ご本人の要望にて買い物の付き添いを行ったり、ご家族の協力にて、かかりつけの美容院酸にて、パーマ。カラーをしていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域資源の活用はできていない。	コロナ禍により地域資源の活用はできていない。		

（様式１）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームのぞみ**

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（　つくし　）	ユニット名（　たんぽぽ　）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8名の方が入居前からのかかりつけ医に診ていただいている。職員付き添いの方に対しては、ケアマネージャーが付き添い、主治医からの情報を得ている。家族対応の方に対しては、心身の状況（直近1週間のバイタル、食事水分摂取量、排泄状況、及び精神面の状況等情報提供し受診結果を伺い記録している。また、訪問看護師を通して医師との連携を図っている	6名の方が入居前からのかかりつけ医に診ていただいている。2名の方は遠方の施設からの入居のため家族の希望もあり転医されている。職員付き添いの方に対しては、ケアマネージャーが付き添い、主治医からの情報を得ている。家族対応の方に対しては、心身の状況（直近1週間のバイタル、食事水分摂取量、排泄状況、及び精神面の状況等情報提供し受診結果を伺い記録している。また、訪問看護師を通して医師との連携を図っている	かかりつけ医の希望は、入所時に利用者や家族と、通院の確認はされていました。遠方の家族や、コロナ禍のため通院は職員やケアマネージャーが付き添っていました。通院状況は家族に、電話や月1回のコメントで報告され、情報の共有はできていました。週1回の訪問看護も行い、健康管理がされていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと業務委託契約している。訪問時に、1週間の心身の状況を確認していただき、変化のある方ににについて相談をし、必要な処置や、受診を行っている。	訪問看護ステーションと業務委託契約している。訪問時に、1週間の心身の状況を確認していただき、変化のある方ににについて相談をし、必要な処置や、受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供票を作成し、また、重要なポイント等は口頭でも説明している。電話等で情報交換し退院に備えた環境作りを行っている。	入院時には情報提供票を作成し、また、重要なポイント等は口頭でも説明している。電話等で情報交換し退院に備えた環境作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方についての意向を伺っている。以後もケアプラン説明時や、体調変化時等重度化した場合についての家族の意向を確認している。1名の方が看取りの対応であったが、ご家族には施設でできること、できないことを説明し同意を得ている。月2回の訪問診療の際には、家族、主治医、看護師ケアマネージャーで情報交換し家の方針を確認した。	入居時に終末期のあり方についての意向を伺っている。以後もケアプラン説明時や、体調変化時等重度化した場合についての家族の意向を確認している。	入所時に、利用者や家族とターミナルに確認がされています。体調により、家族とのやり取りを密に行い、主治医や看護師、ケアマネージャーと情報の交換がされ、適切な介護が行われていました。グループホームでのターミナルの医療的支援は家族と話し合われています。次年度から法人の特養の看護師の連携も行う対応ができていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルに沿って研修を行っている。症状に応じての処置や、対応方法を訪問看護師により定期的に研修を受けている。	急変時の対応マニュアルに沿って研修を行っている。症状に応じての処置や、対応方法を訪問看護師により定期的に研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、実際の火事を想定し通報、避難訓練、初期消火訓練を行っている。個々の身体機能や障害、理解度等により避難誘導の方法を検討している。自身、水災害等に関しても非常災害対策計画を作成し、職員の参集時間の把握、役割り分掌表により個々の持つべき役割に沿い行動できるよう、日中、夜間を想定した訓練を行っている。また、地元の自主防災組織関連にも依頼している。	毎月、実際の火事を想定し通報、避難訓練、初期消火訓練を行っている。個々の身体機能や障害、理解度等により避難誘導の方法を検討している。自身、水災害等に関しても非常災害対策計画を作成し、職員の参集時間の把握、役割り分掌表により個々の持つべき役割に沿い行動できるよう、日中、夜間を想定した訓練を行っている。また、地元の自主防災組織関連にも依頼している。	地域的にハザードマップの洪水・土砂の危険があり、災害訓練や対策は検討されていました。地域との協力体制もできており、利用者個々の居室入り口には移動手段が明記され、車いす移動や手引き、自力移動が表示されていました。災害時には隣接する法人施設の協力体制も確認されていました。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より相手の立場に立った声掛け、尊厳を守る支援を心掛けるよう指導している。特に、排泄時、入浴時、公衆の面前での声掛けの配慮や、個々の利用者にあった声掛けをすること、また、スピーチロック等には十分注意をするように働きかけている。職員には、守秘義務についての指導を行い誓約書をとっている。	日頃より相手の立場に立った声掛け、尊厳を守る支援を心掛けるよう指導している。特に、排泄時、入浴時、公衆の面前での声掛けの配慮や、個々の利用者にあった声掛けをすること、また、スピーチロック等には十分注意をするように働きかけている。職員には、守秘義務についての指導を行い誓約書をとっている。	毎日の介護は個々の尊厳を守るようにされ、スピーチロックには注意を払っていました。入浴や排泄介助は比較的男性職員が多く、同姓介護に努めていますがやむを得ないことがあり、本人の了解を取っていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや夕食の献立を一緒に考えたり。余暇の時間をどう過ごしたいか聴きながら進めている。また、大勢の前では意見や思いを表せない方については寄り添うながら聴いたり、意思疎通が困難な方に対しても表情や思いを汲み取るように指導している。	おやつや夕食の献立を一緒に考えたり。余暇の時間をどう過ごしたいか聴きながら進めている。また、大勢の前では意見や思いを表せない方については寄り添うながら聴いたり、意思疎通が困難な方に対しても表情や思いを汲み取るように指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活歴や生きてこられた背景を理解し、要望をできるだけ聴いて支援している。起床時間や就寝時間もその方のペースに合わせ自由にしていただいている。日課は特になく、余暇活動に関してもその時々で話題に上がったことを、個人及び集団の状況を見ながら進めている。集団で活動することが苦手な方ついては、無理強いすることなく希望を伺いながら対応している。おやつの場所も自由にしている。また、おやつの時間外でも希望を聴きながら飲み物の提供を行っている。	その方の生活歴や生きてこられた背景を理解し、要望をできるだけ聴いて支援している。起床時間や就寝時間もその方のペースに合わせ自由にしていただいている。日課は特になく、余暇活動に関してもその時々で話題に上がったことを、個人及び集団の状況を見ながら進めている。集団で活動することが苦手な方ついては、無理強いすることなく希望を伺いながら対応している。おやつの場所も自由にしている。また、おやつの時間外でも希望を聴きながら飲み物の提供を行っている。		

（様式１）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームのぞみ**

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（　つくし　）	ユニット名（　たんぽぽ　）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前にお洒落について（好みの色、デザイン・こだわり）について伺っている。（バックグラウンドアセスメント）着換えや入浴時など選べる方には選んでいただき、その他の方についてはバックグラウンドアセスメントをもとに、好みと思われるものを一緒に選び着用していただいている。化粧の習慣がある方は化粧品が使えるように支援している。	入居前にお洒落について（好みの色、デザイン・こだわり）について伺っている。（バックグラウンドアセスメント）着換えや入浴時など選べる方には選んでいただき、その他の方についてはバックグラウンドアセスメントをもとに、好みと思われるものを一緒に選び着用していただいている。化粧の習慣がある方は化粧品が使えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事ケア委員が中心となり、思考調査を行い嫌いな食材は代替えを提供、昔作った料理を献立に入れるなど食事作りに反映させている。1週間分の献立を作るが、その日の天候や希望を聴きながら柔軟に対応している。テーブル拭きや野菜の皮むき、おしぼり作り、あと片付け、洗い物などその方にできることに着目し職員と一緒に行っている。毎月おやつ作りなども一緒に楽しみながら行っている。	食事ケア委員が中心となり、思考調査を行い嫌いな食材は代替えを提供、昔作った料理を献立に入れるなど食事作りに反映させている。1週間分の献立を作るが、その日の天候や希望を聴きながら柔軟に対応している。テーブル拭きや野菜の皮むき、おしぼり作り、あと片付け、洗い物などその方にできることに着目し職員と一緒に行っている。毎月おやつ作りなども一緒に楽しみながら行っている。	食事は事業所で作っていますが、昼食は既製のもを活用することもありました。利用者とは、一緒に関われる野菜の皮むき、テーブル拭き、メニューの作成等を行っていました。毎月外食に行っていましたが、コロナ禍のため「お楽しみ会」を企画され、楽しく変化にとんだ食事会やおやつ作りができるよう工夫されていました。皆さんバイキングはとても楽しそうでした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取カロリー等視野に入れながら献立を作っている。食事水分量をチェックながら摂取量が少ない方に大したは、食事の時間に限らず提供したりその方の食べたい場所に配慮して提供している。食事はペースト食、刻み食。常食等個々の利用者の咀嚼、嚥下その他の状況を見ながら提供している。水分は、好みのものやアイソトニック飲料や果物から撮っていただいている。	栄養バランスや摂取カロリー等視野に入れながら献立を作っている。食事水分量をチェックながら摂取量が少ない方に大したは、食事の時間に限らず提供したりその方の食べたい場所に配慮して提供している。食事はペースト食、刻み食。常食等個々の利用者の咀嚼、嚥下その他の状況を見ながら提供している。水分は、好みのものやアイソトニック飲料や果物から撮っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる方は、毎食後歯磨き、及び義歯の洗浄を行っていただいている。準備、声掛けを必要とする方、モデリングすればできる方、うがいはできる方、それぞれ能力を評価し行っている。また、その方の口腔状態に応じ、歯ブラシ、口腔用スポンジ、舌ブラシ、口腔用ウエッティなどを使い分けている。	自力でできる方は、毎食後歯磨き、及び義歯の洗浄を行っていただいている。準備、声掛けを必要とする方、モデリングすればできる方、うがいはできる方、それぞれ能力を評価し行っている。また、その方の口腔状態に応じ、歯ブラシ、口腔用スポンジ、舌ブラシ、口腔用ウエッティなどを使い分けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の記録（食事・排泄・バイタル・入浴・心身の状況・活動・言動）から排泄パターンを検討し、全員トイレ排泄を行っている。個々のADLや、身体状況に合わせ。介助バー、跳ね上げ式バーを選択し対応している。また立位がとれない方（3名）に対しても2名対応でトイレ誘導を行っている。	個人の記録（食事・排泄・バイタル・入浴・心身の状況・活動・言動）から排泄パターンを検討し、8名の方がトイレ排泄を行っている。個々のADLや、身体状況に合わせ。介助バー、跳ね上げ式バーを選択し対応している。また立位がとれない方（2名）に対しても2名対応でトイレ誘導を行っている。	排泄は個々の記録をとり、支援されていました。入所時リハビリパンツを使用されていた方も支援によって布パンツにパット使用ができ、ムレのない毎日が送れていました。軟便の方は牛乳からヨーグルトに、便秘の方にはプルーン対応、食事にも繊維質の多い献立など工夫して、気持ちよく過ごせるようにされていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品（ヨーグルト、牛乳）とプルーンを提供、水分摂取を勧めたり、繊維質の多い野菜を多く取り入れている。食後の排便反射を逃さないよう気を付けている。また、罪でできるはいべ🅱🅾体操、腹式呼吸、体幹ねじり、足上げ腹筋、押し合い腹筋体操などを行っている。トイレ内までできる方に関しては、腹部マッサージを行い自然排便を促している。	毎日乳製品（ヨーグルト、牛乳）とプルーンを提供、水分摂取を勧めたり、繊維質の多い野菜を多く取り入れている。食後の排便反射を逃さないよう気を付けている。また、罪でできるはいべ🅱🅾体操、腹式呼吸、体幹ねじり、足上げ腹筋、押し合い腹筋体操などを行っている。トイレ内までできる方に関しては、腹部マッサージを行い自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間を通し毎日、午前、午後、利用者の希望、心身の状態、皮膚の状態等を見ながら入浴していただいている。入浴するタイミングもその日の情況を見ながら誘いかけをしている。入浴剤を使用したり、冬至にはゆずを浮かべたり、音楽をかけたり、楽しみの時間になるよう工夫している。	1週間を通し毎日、午前、午後、利用者の希望、心身の状態、皮膚の状態等を見ながら入浴していただいている。入浴するタイミングもその日の情況を見ながら誘いかけをしている。入浴剤を使用したり、冬至にはゆずを浮かべたり、音楽をかけたり、楽しみの時間になるよう工夫している。	入浴は週2回行っていますが、希望によりできるだけ入浴できるようになっていました。入浴は個浴でゆったり入って頂くように、ゆず湯や入浴剤、音楽など楽しみを提供されていました。座位浴槽があり立位の困難な方の対応にも応じられる体制ができていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に休息や午睡は自由にしていただいているが、活動状況や心身の状況をみながら適宜休息を勧めている。室温に配慮し、夜間も適宜水分補給を行っている。また、安眠できない方に対しては、原因を考え起因しているものを取り除くようにし、不安のある方には寄り添っている。	基本的に休息や午睡は自由にしていただいているが、活動状況や心身の状況をみながら適宜休息を勧めている。室温に配慮し、夜間も適宜水分補給を行っている。また、安眠できない方に対しては、原因を考え起因しているものを取り除くようにし、不安のある方には寄り添っている。		

（様式１）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームのぞみ**

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（　つくし　）	ユニット名（　たんぽぽ　）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書をファイリングして、内容の確認をし副作用の注意点、また、内容に変更があった場合には受診記録及び申し送りノートに記載し職員に周知している。投与時は投薬チェック表に記録している。	内服薬説明書をファイリングして、内容の確認をし副作用の注意点、また、内容に変更があった場合には受診記録及び申し送りノートに記載し職員に周知している。投与時は投薬チェック表に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事が生きがいだった方には施設の畑で野菜作りや収穫を、旅館で仲居をしていた方には盛り付けや、配膳、食器洗いや着物の着付けを教えていただいている。その他の方にも縫物、洗濯物干し洗濯物たたみ等をしていただいている。コロナ禍で外食には行けないが、施設内でバイキングやお楽しみ会レクレーションや季節の行事を行い楽しんでいただいている。	縫物、洗濯物干し洗濯物たたみ等をしていただいている。コロナ禍で外食には行けないが、施設内でバイキングやお楽しみ会レクレーションや季節の行事を行い楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により本人の意向に沿った外出はできていない。ドライブや、散歩、外気浴を行っている。お墓参りを希望した方に対して付き添いを行った。	コロナ禍により本人の意向に沿った外出はできていない。ドライブや、散歩、外気浴を行っている。	コロナ禍のため、本人の希望される外出や外食、また法事や理美容に出かけたり、買い物でスーパーまで行き食材や個々のお菓子などを買うことができていません。感染予防をしてドライブや散歩、外気浴を行っていました。感染予防対策を行い、外出が出来ないか検討されていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方は1名。その他の方はご家族の希望により施設管理している。本人から購入の希望があった場合は職員が代わりに買い物に行っている。（コロナ禍のため）	自己管理されている方は1名。その他の方はご家族の希望により施設管理している。本人から購入の希望があった場合は職員が代わりに買い物に行っている。（コロナ禍のため）		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があった時や、家族や知人から贈り物や手紙等があった際には電話をかける援助を行っている。また、手紙の返信の声掛けや文面を考える手助けや代筆投函の支援を行っている。	ご本人から要望があった時や、家族や知人から贈り物や手紙等があった際には電話をかける援助を行っている。また、手紙の返信の声掛けや文面を考える手助けや代筆投函の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に広い空間となっているが、ベージュを基調とした普通の家の内装に近づけている。採光に関しては眩しすぎないようにレースのカーテンで調節したり、音に関しては、テレビや音楽は雑音とならないように、観よう、聴こうとしている時に点けるようにしている。。また、職員の声掛けや生活音もできるだけ静かにするよう指導している。室温は空調設備、床暖等で調節している。花や観葉植物を飾り生活に色どりを加えている。	全体的に広い空間となっているが、ベージュを基調とした普通の家の内装に近づけている。採光に関しては眩しすぎないようにレースのカーテンで調節したり、音に関しては、テレビや音楽は雑音とならないように、観よう、聴こうとしている時に点けるようにしている。。また、職員の声掛けや生活音もできるだけ静かにするよう指導している。室温は空調設備、床暖等で調節している。花や観葉植物を飾り生活に色どりを加えている。	共有空間は広々とし、2ユニットは行き来が自由になっています。レクリエーションや行事が一緒に行える広い空間でした。共有スペースは季節感のある飾りつけや利用者の作品が飾られ、温かい雰囲気がありました。家が隣同士の方がいて、それぞれのユニットのため、一緒に食事をして楽しめていることもありました。観葉植物や花が飾られ落ち着いた毎日が送れていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仏間のソファは、たの利用者からは死角となり一人になれる空間である。また、ベランダには自由に出ることができ日光浴などを楽しまれている。利用者同士相性の良い方、仲の良い方を近くの席に案内している。	仏間のソファは、たの利用者からは死角となり一人になれる空間である。また、ベランダには自由に出ることができ日光浴などを楽しまれている。利用者同士相性の良い方、仲の良い方を近くの席に案内している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン（自然な目覚めが促せるように非遮光のカーテンを使用）と押入れ以外私物を自由に持ち込んでいただき、家具の配置も基本的には、ご本人と家族にお任せしているが、居室内を自由に歩くことができるよう家具の配置を提案させていただいた例もある。居室にはテレビ、冷蔵庫、こたつ、姉弟、仏壇、タンス、家族の写真や趣味の作品が置かれ、自宅に近い環境の中で生活されている。	カーテン（自然な目覚めが促せるように非遮光のカーテンを使用）と押入れ以外私物（テレビ、冷蔵庫、こたつ、姉弟、仏壇、タンス、家族の写真や趣味の作品）を自由に持ち込んでいただき、家具の配置も基本的には、ご本人と家族にお任せしているが、ベッドに横になりながら、大切なものに触れられるようにご家族の写真や趣味のものの配置を提あさせていただき、それらに囲まれて休まれている。	地域で暮らしていた生活を大切に、家庭で使っていた物を持ち込まれています。コロナ以前は家族が宿泊できるようにと、個々の居室は八畳弱の広さがあり宿泊されていました。今まで使われていたこたつ、仏壇、箪笥等いろんなものが持ち込まれていました。食器類も今まで使っていたものを使われていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどは目印を付けたり、衣類の引き出し等にも何が収納されているかわかるように表示している。日めくりカレンダーや時計で日時が理解できるようにしている。居室には表札があり自分の部屋がわかるようにしている。	トイレなどは目印を付けたり、衣類の引き出し等にも何が収納されているかわかるように表示している。日めくりカレンダーや時計で日時が理解できるようにしている。居室には表札があり自分の部屋がわかるようにしている。		